

目標（6）

産業を活性化して、 まちを元気にします



▲飾り瓦コンクールのような

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	働く場や消費の場として市民の日常の暮らしを支え、まちの活力を生み出す基盤である産業（農業・商業・工業など）を活性化するため、現場のニーズをふまえた振興策や、事業者やまちの強みを伸ばす取組みを応援していきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 事業者やまちの強みを活かした産業活動が、活発に行われています。 ◇ 新たな雇用や消費が生まれ、市民生活の基盤が安定しています。 ◇ まちの元気を生み出そうと、意欲を持った市民や団体が、ビジネスの手法による地域課題解決や活性化に向けた行動を起こしています。 ◇ まちの魅力や自慢が市内外に知られ、高浜市で過ごす時間を楽しむ人が増え、賑わいや活気が生まれています。

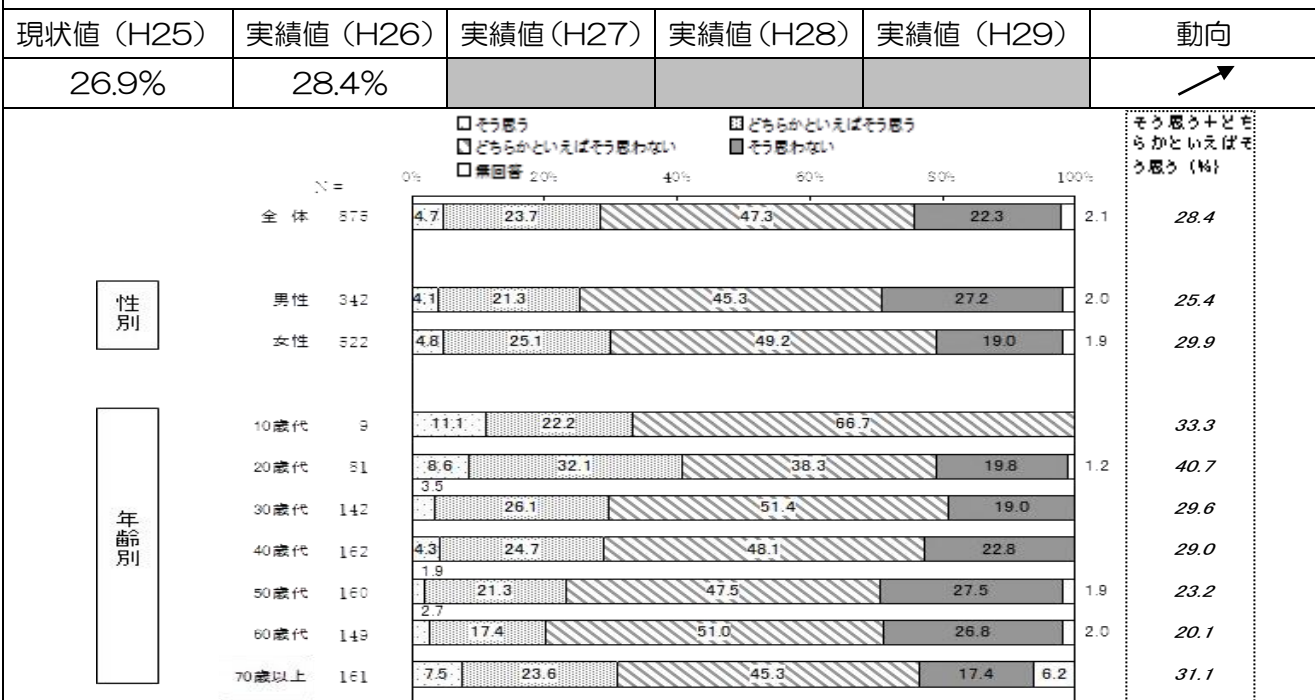
II. 目標達成のための主な取組み【DO】

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
(1) 行政内部や関係機関との連携を強化し、新たな工業用地の創出や企業誘致を進めます。	①企業の投資意欲を把握するため企業訪問を実施した。	H26.8～
	②市北部地区（小池町一丁目地内）の意向調査を実施した。	H26.8～
	③工場緑化に関するアンケート調査を実施し、工場立地法に規定する緑地率等の規制緩和を実施した。	H26.9～
(2) 事業者・関係機関との連携を強化し、現場のニーズをふまえ、産業の活性化、雇用の安定に向けた取組みを進めます。	①特産野菜の普及に向け、ジャンボ落花生の種を市内の農家に配布・栽培し、鬼みちまつりなどで販売した。	H26.5～
	②がんばる事業者応援事業において、企業の経営状況の把握、制度をPRするため企業訪問を実施した。	H26.8～
	③議員提案による瓦の利用促進を図るための条例である「みんなで三州瓦をひろめよう条例」を制定した。	H26.12
(3) コミュニティ・ビジネスの創業や持続的な経営に向けた支援を行います。	①地域においてコミュニティ・ビジネスを創業しようとする「チャレンジャー」の発掘を行った。	H26.4
	②チャレンジャーを応援団が志縁する「支援は志縁 志縁◎循環動く円卓会議」を開催した。	H26.11 H27.3
	③コミュニティ・ビジネスの創業に向け、チャレンジャーの特定非営利活動法人設立を支援した。	H26.11 H27.3
(4) 自然・伝統文化・施設などの地域資源をつなぎ、市民・事業者・関係機関とともにまちの魅力を高め、賑わいの創出や交流人口の拡大に向けた取組みを行います。	①観光案内所（ONiHouse）での特産物販売に対する支援を行った。	H26.4～ H27.3
	②観光案内所創造委員会に参加し、観光資源の発掘及び集客に向けた取組みを検討した。	H26.5～ H27.3
	③観光案内所（ONiHouse）での賑わい創出のため、毎月第1日曜日に開催したオニマルシェ及び市民マラソン大会と連携した出張オニマルシェ開催に対する支援を行った。	H26.5～ H27.3

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

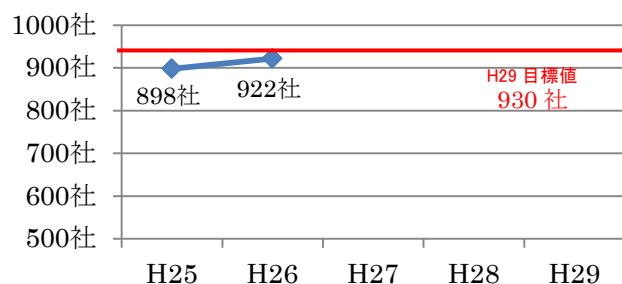
1. 市民意識調査結果

【設問】産業が活性化して、まちが元気になっていると思う

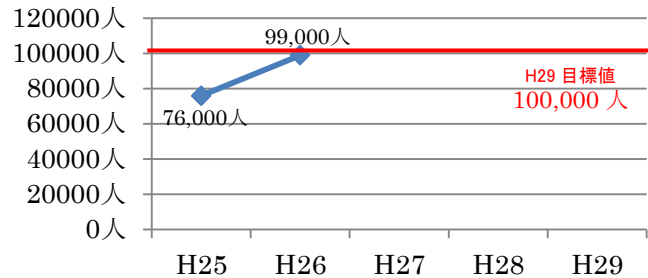


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 市内の法人数



2) 行政がかかわるイベントの来場者数



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- ・指標1)「市内の法人数」は、策定時と比べて 24社増加した。景気が上昇傾向であることにより企業の投資意欲が上がったことが実績値を押し上げている要因と考えられる。
- ・指標2)「行政が関わるイベントの来場者数」(鬼みちまつり来場者数、かわら美術館来館者数)は、策定時と比べて 23,000人増加した。子育て世代や孫を持つ世代が実績値を押し上げていると思われる。これは、子どもや孫を連れて市内のイベントに参加したことが要因と考えられる。
- ・市民意識調査の結果は策定時と比べて 1.5%増加した。これは市内の企業が増加したこと、イベントの来場者数が増加したことにより、実感として市民が感じた結果であるとともに、景気回復に支えられている面もあると考えられる。
- ・全体的な指標は上昇しており、これを継続させるためには目に見える取組みが必要不可欠である。具体的には工業立地の具現化や三州瓦の販売方法の検討による地場産業の活性化、高浜市の魅力の集約や新たな観光資源の発掘などを通じて市民の高浜への愛着を「自慢」に変化させることが重要である。地域経済の動向も見据えながらも、まち全体が元気になっていると実感できる取組みに注力していく必要がある。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案）	見直し・改善（案）
（１）新たな用地創出に向けた調査・研究 ・早期の事業着手を図るため、市を挙げて関係機関に要望していく必要がある。	・工業立地を具現化するために、関係機関との調整打ち合わせを密に行う。（豊田町三丁目地区・小池町一丁目地区）	継続
	・地域経済の活性化や地域雇用の安定のため、企業ニーズに合わせた新たな工業用地の創出をするため、小池町地区の調査委託を行う。	新規
（２）地場産業の三州瓦の販売方法の検討 ・三州瓦販売枚数の落ち込みに歯止めをかけるため、伝統文化を取り入れた商品開発やブランド化の支援を行うとともに、震災による瓦に対する風評被害を払しょくするため屋根瓦の優位性をPRする必要がある。	・「みんなで三州瓦をひろめよう条例」に基づき、三州瓦屋根工事奨励補助金の対象を拡充し、屋根工事に対する補助だけでなく、外構やガーデニング等の工事に三州瓦が使用された場合の補助など、様々な用途に応じた検討を行い、三州瓦の利用拡大及び普及の促進に努める。	拡充・強化
	・瓦組合が行う被災地における災害復興住宅支援金交付事業に対し支援を行う。	継続
	・見本市や飾り瓦コンクール、展示会といった販路拡大に向けた瓦組合が行う事業に対し、引き続き支援を行い瓦材の良さを知ってもらう。	継続
（３）高浜市の魅力を高め、活性化への動機づけを図る ・各文化保存会・まつり実施団体・事業者・関係団体等と連携し、文化や伝統、特産品や名産品を集約してPRし、新たな観光資源の発掘や今ある資源をつなげることで市民の高浜への愛着を「誇り」に変化させ、「わがまち高浜」を自慢できる市民を増やす。	・鬼みちまつり実行委員会が実施する鬼みちまつりに対し職員の人的支援や関係機関との調整を図る。	継続
	・観光案内所創造委員会へ参加し、共に新たな観光資源の発掘等を行う。	継続
	・観光協会が実施する地域資源と観光を結び付ける取組みや新たな観光資源の発掘を目指して行う事業に対する支援を行う。	継続

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

- ・ジャンボ落花生の植栽・育成を「産業化」を視野に入れた取組みとして進めていくのであれば、単に“珍しい野菜”というだけでは難しいと思われる。また、特産野菜はジャンボ落花生だけで良いのか。アクションを起こしていく上で、起業として成り立つのか、高浜市の農業を救えるのか、今後の発展性はあるかといった議論を十分に練らないと、途中で頓挫しかねない。
- ・コミュニティ・ビジネスを創業しようとする「チャレンジャー」の発掘・支援について、今後の方向性をしっかりと定めた上で取り組んでいただきたい。

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

- 鬼瓦を全国的にさらに普及させるため、鬼が関係するような地区（例：和歌山県・岡山県）に売り込むといった発想も必要ではないか。
- 今後の取組みとして記載がないが、営農組織の法人化についての働きかけを、今後も継続して行っていただきたい。

その他、目標の達成に向けて

- 産業の活性化は、市民の日常の暮らしを支え、まちの元気につながるものであり、市民がもっとも望んでいる目標の一つである。他の自治体にも積極的に足を運んで情報収集をしながら、自分たちのPDCAサイクルの確認・見直しを行っていくことが大切である。確認・見直しを繰り返すことで、新たな発見にもつながる。
- 産品を売り込むには、売り込み先の産品も受け入れるなど、双方向での関係づくりが大切である。
- 高浜市には、鬼のみち、かわら美術館、大山緑地（桜・おまんこ）など、観光資源が数多くあるが、買い物ができる場所など、周辺のインフラを整備することで観光資源の連続性・ストーリー性が生まれ、魅力がさらに高まっていく。民間とも連携して取り組んでいただきたい。
- 観光における交流人口の拡大に向け、市外への積極的なPRをお願いしたい。